

平成21年度「授業力向上プロジェクト事業研究学校」

文部科学省指定平成20・21年度道德教育実践研究事業

「 豊かな心で、共に生きる子どもを育む道德教育 」
～ 心にひびき合う道德教育の充実をめざして ～

宇都宮市立国本中央小学校

1 研究の目的

子どもたちを取り巻く社会環境のめまぐるしい変化が物質的な豊かさをもたらした一方で、社会規範自体が大きく揺らぐといった社会の変化や家庭の教育力の低下、自然体験等の体験活動の減少等の様々な問題も起きている。それらの今日的課題を受けて、物質的豊かさよりも精神的な豊かさを価値として認め、心豊かに生きることができるよう、自らの心を育てることが必要になってきている。

以上のことから、学校教育において道德教育が担う役割は大きいものであり、道德の授業でじっくり道德的価値の自覚を深め、道德的実践力を育てていくことを通して、子どもたちの豊かな心を育てていきたいと考えた。

2 研究内容

(1) 本校としての主題の捉え方

①〈豊かな心〉とは

「豊かな心」をもつ児童を育てるためには、心の教育の要となる道德の時間の充実はいうまでもなく、学校教育全体を通して豊かな人間性を育ていけるような教育活動を展開することが重要である。本校における児童の実態や教職員・保護者の願いなどから、豊かな心を次のようにとらえた。

- 自己を見つめ 自分のよさを伸ばそうとする心
- 相手を思いやる やさしい心
- 生命や自然を大切にすること
- きまりを守り 人のために役立つ心

②〈共に生きる〉とは

「共に生きる」児童とは、自分の言動に責任と自覚をもって取り組むだけでなく、他者とのかかわりの中でも、自分のよさを発揮しながら、互いを認め合い、協力しながら集団生活を創造し、さらによりよい人間関係を主体的に築こうとする子供を育てていくことであると考えた。

そこで、児童自身が他の人との共に生きるかかわりの中で、体験的な活動を通し、規範意識や基本的な生活習慣を確立し、思いやりの心や生命尊重の態度を育み、人間関係を築く力や社会参画への意欲を育てていきたいと考えた。

③ 〈心にひびき合う〉とは

「心にひびく」とは、児童自身が『いいな』『すごいな』『その通りだな』と前向きに感じることであり、その揺さぶられた感情の動きが、一時的なものではなく『心に残る』ことである。児童は、資料との出会いの中で、共感したり強い感動や深い感銘を受けたりしながら、自分の心を見つめていく。また、道徳の授業での、友達とのかかわりの中で、さらに深く考えたり高めたりしていく。そのようなかかわり方を、「心にひびき合う」と考えた。

道徳の授業で心にひびき合ったことを、日常の体験に結びつけるような指導を図ることは、道徳性の育成に大きくかかわってくる。豊かな体験活動を充実させ、道徳の時間との関連を具現化していくとき、その授業は、より望ましい体験的な学習に近づくと考える。また『心のノート』を活用することにより、日常の生活の中で、道徳的価値を自分のものとして受け止めることができると考えた。

さらに、事後の指導において、授業で学習した道徳的価値にかかわりある体験活動を意図的に組んでみることも、児童の心に直接的にひびいてくる。そのような心にひびき合う体験的な学習を通して、より豊かな心を育ていけると考えた。

以上のように、子どもの心情に訴え、子どもが意欲的に考え、主体的に話し合ったり体験的な活動を重視したりしていくことで、心にひびき合う道徳の授業を目指し、指導法の工夫に努めることにした。

(2) 研究でめざす児童像

- 自ら考え、正しく判断し、実践する子
- 思いやりの心をもって、助け合って行動できる子
- 身近な自然に親しみ、自他の生命を大切にする子
- きまりを守り、よりよい社会生活をめざす子

(3) 研究の仮説

道徳の授業において、道徳的価値を理解し、価値と自分をかかわらせ、価値と生活をつなげるための手立てをとったならば、子どもが道徳的価値を主体的に自覚し、道徳的実践意欲が育ち、豊かな心が育つのではないか。

(4) 研究の仮説に対する具体的な手立て

- ① 道徳的価値の主体的な理解のために
 - ・ 心にひびく資料を選択する。
 - ・ 資料提示を工夫する。
 - ・ 中心価値に効果的に迫るために展開を工夫する。

② 道徳的価値と自分をかかわらせるために

- ・ お互いのよさの交流を通して、自分のよさに気付かせる。
- ・ 本時での変容を自覚し、自分のよさに気付かせる。
- ・ 授業において、道徳的価値と各自の体験を想起させる発問を工夫する。
- ・ 授業及び日常生活の中で、心のノートを活用する。

③ 道徳的価値と生活をつなげるために

- ・ 道徳の授業に生活体験を生かす。
- ・ 日常の中での様々な教育活動との関連を図る。

(5) 主な実践内容とその成果

① 道徳的価値の主体的な理解を図るための資料の工夫について

- ・ 児童の心にひびくような資料を選定し、中心価値に効果的に迫る展開を工夫した。
「勇気パワーくん」(2年)や「揺れる心の模型」(4年)の提示は、見えにくい心の葛藤を視覚的に捉えたり表現したりするのに効果的だった。



「勇気パワーくん」(2年)



「揺れる心の模型」(4年)

② 豊かな体験活動と道徳の授業の関連を図った実践について

- ・ 動物ふれあい教室や親子ふれあい学習で体験したことが、道徳の授業の中で呼び起こされることによって、児童の心を揺さぶり、道徳的価値の自覚を深めることに効果的だった。



「動物ふれあい教室」(1年)



親子ふれあい学習(1年)

③ 道徳的価値と生活をつなげるための工夫について

- ・ 様々な活動を写真で提示したり、「心ぽかぽかカード」や「家族からの手紙」を読んだりすることによって、道徳的価値を自分達の生活につなげることに効果的だった。



「心ぽかぽかカード」(6年)



様々な活動を写真で提示

- ・ 心のノートを、事前に使用したり、授業中に考えを書きとめたりプリントを貼ったりなど、意図的に活用してきた。このことは、道徳の時間以外での様々な活動や学習が、日常的に継続的に行われることとなり、道徳教育の全体を視野に入れた継続的な学習につながったと思われる。



授業での活用



事前・事後での活用

3 まとめ

- ・ 道徳的価値を主体的に理解させるための児童の心にひびくような資料の選択、心の葛藤が表現できるような資料提示の工夫、中心価値に迫るための小グループやペア方式の話し合いの工夫、体験活動と道徳の授業との関連など、道徳の授業を改善してきたことにより、道徳教育の充実が図られた。
- ・ 推進地域の指定を受けた本校と晃宝小の2校間で、授業研究を主とした相方向性の交流が図られた。このことは、互いの児童のよさや今後指導していかなければならない点に気付くことができたり、他校の研究のよさを本校の授業に取り入れたりすることにつながった。